

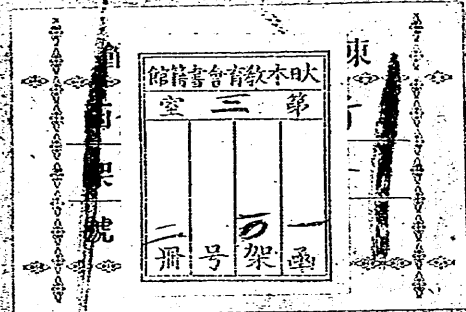
小學讀本

農學啓蒙

十文字信介編

前編

卷之二



農學啓蒙前編卷の二

東京 田中芳男閱

日本 同 大槻文彦校

陸前 十文字信介編

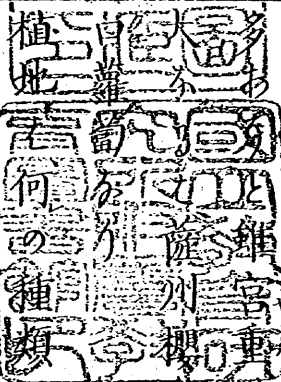
蔬菜類

蘿蔔

蘿蔔ダイコンと野菜中、最モ入用ある、根菜ネサイにして、其種類數

練馬ネバ等を最上と以、又、其殊ト肥島ヒノシマの蘿蔔ダイコンにして、細く長ナガきを、守モリ

東京
書籍
山

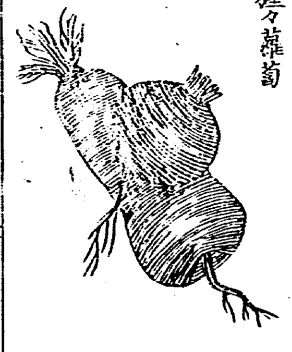


農學啓蒙前編卷の二

皆作土の深くして、肥沃ある

を好む、又、其性舊地を嫌むざるが故に、毎年、同地
 を作ると雖、毎小上品を産むべし
 下種ハ、前日の晩、畑地を畦を立て、之に水肥を注
 ぎ、早朝下種をむるを良法とす、又、其播種の分量を
 一段小、八九合を用ゐるべし
 苗を、嫩葉の時より、次第に間引き、終に減じて、一
 歩小、三十五六本を残すべし、是より後を、屢、濃糞
 を灌ぎ、中打、草取等注意をすべし、又、極めて、肥大を
 るものを作るものと、枕して、畑に孔を穿ち、之に、肥
 料を交ぜざる、軟土を入き、一處に、種子四五粒を

狸々蘿蔔



下をべし、胡蘿蔔、牛蒡等、皆此法を施をあり
 時時を、四季共小、適せざることあり、又、害虫の生
 じたる時を、苦參(キツ子サハギ又ト)の煎汁を、水
 と和して灌ぐべし、又、此虫害を避くるに、良法あ
 り、其法ハ、種子一分を、鶏卵四箇の蛋白と、糠三合
 とを、混じたるものに、抹し、尋常の法の如く、蒔き
 付くべし

狸々蘿蔔を、一名ハッカ蘿蔔とも
 云ふ、近來船載の根菜にして、圓
 長の二種あり、其形皆小あり、播

農林書局

種後、二三週間を、採收の期と以、西洋料理も、常
 小生ホナも、之を用ゐるあり、作法も、蘿蔔カブも同トと
 雖、元來、其根の小あるを以て、作土を、深きを要せ
 ば、且、又、下種の法も、畦蒔、撒播、隨意も、之を行ふべ
 し

蕪菁カブラも、白、紫、黄の諸種あり、其形も、長圓の二種あ
 り、本邦在來の種類にて、ハ、天王寺蕪菁、近江蕪菁、
 及、安藝國山縣の、大田蕪菁を良種と、洋種にて
 ハ、西班牙イスパニヤ、及、瑞典スウェーデンの産を、最上と、以、洋和の二種と
 も、其作法、総て蘿蔔と同トく、成長極めて早

蕪菁

菜菔

菜菔カボチャも、從來、我邦も、之を作りたものと、其種類、
 一、二も過ぎざり、ハ、近年、西洋より、各種の良好
 あるもの、傳をせり、各種皆、三月初旬より、九月下
 旬に至るまで、播種し得べく、葉莖、及、根とも、年中
 の食用も、供すべし、作法も、畑地も、二尺幅の畦を
 作り、埋肥を、あして、下糞を、灌ぎ、土を覆ひて、溝播
 せり、其苗、凡、二三寸も長せば、次第も間引き、五
 寸の間も、一株を残せば

胡蘿蔔ニンジンも、赤、黄、白、紫の四種あり、形も、長きあり、短
 きあり、作法も、粗蘿蔔ホも同ト、但し、其苗四五寸の

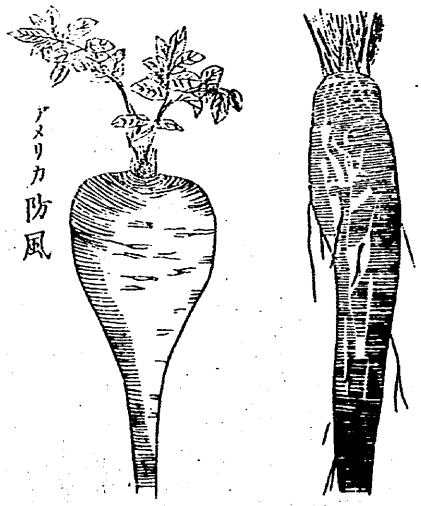
胡蘿蔔

牛蒡

頃より、次第に間引きて、莖葉を食料とし、凡五六寸の間、一本を残さべし、肥料を多く施すを利とす、種子を四五月の頃、時き付くべし、西洋にてハ、作りて、牛馬の飼料とせむるもの、亦甚多し、牛蒡は、其植地、作法等、總て蘿蔔に同トと雖、下種の前、一夜の間、種子を、醬油中に浸し、時り、生立、殊に良しと云ふ

又種子ハ、古株より、取るを可とし、取りたる種子も、一二年経過する者と、用ゐるを佳し、以、北海道札幌の邊にハ、野生のもの甚多く、極めて肥大あり

亞米利加防風 菊牛蒡 牡蠣菜



牡蠣菜

牡蠣菜、其根、上圖の如く、其風味牡蠣の如し、菊牛蒡、其根牛蒡の如く、風味牡蠣菜に似たり、亞米利加防風、一種の香氣を有せり、故に、此根菜を乳牛に與ふと、其

牡蠣菜、其根、上圖の如く、其風味牡蠣の如し、菊牛蒡、其根牛蒡の如く、風味牡蠣菜に似たり、亞米利加防風、一種の香氣を有せり、故に、此根菜を乳牛に與ふと、其

牡蠣菜、其根、上圖の如く、其風味牡蠣の如し、菊牛蒡、其根牛蒡の如く、風味牡蠣菜に似たり、亞米利加防風、一種の香氣を有せり、故に、此根菜を乳牛に與ふと、其

農學啓蒙 (卷の二)

芋青

乳汁香氣を含み、風味極めて佳あり、以上の三種とも、其作法、牛蒡サイイモと異なるらば、青芋サイイモと、肥えざる陰地を好むが故に、家屋の蔭、又木樹林の蔭等にして、地味の宜しき所を選び、能く之を耕して、厩肥、及草肥等を鋤き込め、四五月頃、又再地を耕し、凡二尺を隔て、畦を立て、其低き所ハ、一二箇つゝ、種芋を植ゑ付くべし、其後、芋の長ざるハに従ひ、隴を切り掛り、塵芥、厩肥、蠶糞等を以て、根の邊を覆ふべし、車轂芋ヤツガシラ、白芋ハスイモ、紫芋等の作法、大略之ハ同ト

药药

药药コシヤクモと、其性温暖を好めども、日當強き所ハ却て害あり、植地ハ、山間傾斜の地等、小石交りの土地尤モ宜し
 作法ハ、冬初、深く畑地を掘り、厩肥、及草肥を糺き込め置き、冬末より、屢之を犁き返し、濃糞又ハ小便を漑き、四月初旬ハ、塊根タネを植ゑ込むべし、其疎密ハ、地味ハ依りて、一定せむと雖、大凡畦を二尺とし、三十粒許を、一坪ハ植ゑ、草肥、木葉等を厚く上ハ覆ふべし、三ヶ年を経て、大なる根塊ハと為るものあり、抑モ药药ハ、褐腐コヒヤクを作るものとあらざ、其生

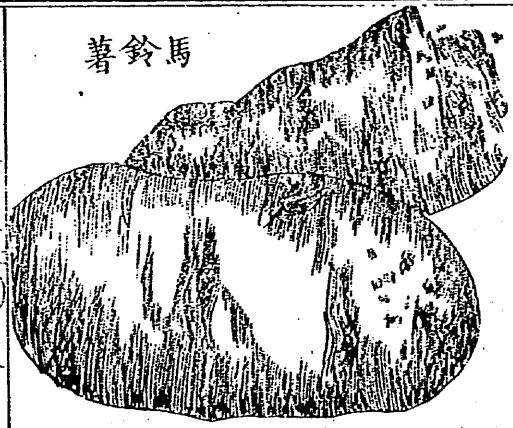
甘薯

根を擦りて、之を紙に塗り、獸皮の如く、強靱を
 らしむるを得るなり
 甘薯サツマイモを、温暖の地を、好む植物にして、其作法至つ
 て易く、其收納亦甚多し、但寒氣の強き國もても、
 温養を怠らざれば、相應の收納あるをのあり、而
 して、其功用の多き、蒸焼、又ハ、種々の料理に用ゐ
 るの外、刻み乾して、粉となし、團子、若くハ、餅とな
 すべく、或を澱粉を製し、或を飴を造り、或を酒を
 醸すべし
 種類も二あり、其根淡白色にして、微く紫色を帯

ぶる、この味最甘く、其根黄色あるもの、根形大
 なりと雖、味劣なり
 地味を、輕鬆ある砂地を、可とせども、山畑の真
 土等、其質堅く重き處も、深く其地を犁返し、
 厩肥、草肥、腐藁等を能く耙交へて、作る時ハ、砂地
 も劣らざる收納あり
 此薯を作るハ、先温暖ある場所を撰び、苗代を
 取立て、苗を仕立て、其法苗代の大小ハ、己の
 意に任せ、苗代の西北を、藁菰の類もて、厚く圍ひ、
 其内の土を能く耕し、厩肥を多く入せ、平地より

え、少く高き程あり、二月中旬の頃、無疵ある甘
薯を撰び、五六寸間子之を並べ、其上へ、草肥等の
腐りて、土の如くなりたるを、厚さ三寸許、振懸け
濕菰スモモを、覆ひ置くべし、然る時ハ、日からぞいて、芽
を生ト、四五十日の間ハ、其蔓、三尺乃至五六尺ハ、
延るとのあせバ、其時、右の蔓を切取りて、三節毎
小之を切り、一本宛、畑地へ、植付くべし、植付の距
離ハ、二尺程ハ、畦ツツと畦との間ハ、六尺程あり、蔓の
延るハ、從ひ、其節々ツツを埋めて、土を覆ひ置く時ハ、
節毎ハ、根を生ト、甘薯畑中ハ、充るあり

馬鈴薯



馬鈴薯ジャガイモハ、多く、滋養分を含む植物ありて、其作法、
甚易く、風土を選むべし、生育して、其收納甚多し、其
薯ハ、澱粉、及砂糖を製し、又、酒、焼酎を造るべし、莖
葉ハ、焼きて「ポッター」を製し、
澱粉を製し、とる剩水アツミハ、用ゐ
て洗粉を製するを得べし
又、此薯ハ、能く煮て、穀稈、乾葛
等を混ト、以て牛馬を養ふ時
ハ、能く、其体を、肥満あらしむ
るのよあらば、別殊の効ある

農學啓蒙 卷の二

多量の糞溺を得べし

作法も早春より能く土地を耕し置き、四月上旬頃、一歩ふ九株を立つる様、種薯を植うるあり。種薯を切りて二片とし、其切口に藁灰を付け、一時間程陰干し、土中一二寸の深さよ、植え付くべし、全体のまき植うるに損あり。肥料ハ、積肥、木灰等を最上とし、下糞類を忌む者なり。

此薯を如何ある地ゆても能く生育せざども、水氣の溜る所よてハ、腐敗せざるの患あり、故に能く

薯菊

乾燥せる地ゆ作るべし、豊作の年よて、一株より三四升の收納を得べし。

西洋ゆてハ、此薯を食せざる處あく、之を常食する人々、身体壮健ゆして、且肥満せり。

米國種よ、長形ゆして、皮の赤き種類あり、種薯を植えてより、凡九十日を経て、成熟す、其味、黄種よ劣まども、作法も甚易し。

薯菊を、風土ハ係らざるゆして、能く生育し、其收量多きこと、馬鈴薯ハ優劣あり、根形も馬鈴薯の如く、花様も向日葵の如し、其食法、及貯藏法甚多し。

薯蕷

薯蕷イモを地層の深き、真土質の地不宜、都邑の近傍イモにて作る時を殊ニ、許多の利益あり畑地イモの畦幅二尺を隔て、能く腐らせしむ廐肥、堆肥等を耙き込ミ置き、二月中旬の頃、五六寸を隔て、三四寸小切りする種薯を植うべし、其植方ハ薯を少しく横ニ偃せ、上ニ三四寸許の土を覆ふべし、又早年イモハ時々、灌水を要せしむ、常ニ人糞を嫌ふあり

蔓の稍長シ時を、竹、或は柴を立て、之ニ這ヒ纏ルせ、或は棚を構へて、纏ルせべし、且、其蔓既ニ長シば

薯蕷の栽培法

一時を、必ズ其先を摘ミ去ルを要す肥料ハ、油糟及干鰯等、根の側ニ施シて著功あり、霜降りて後、掘り採ルべし

山背不用の地ニ、此薯を作リて、大ニ利を得ベき、妙法あり、其法ハ、竹、或ハ柴等ニおて、山背ニ、箒の如きニのを作リ、側邊ヨリ、作土を入シつ、乾糞を交シせ、零餘子ヲ、或ハ薯片を植スむべし、培養法等、總て畑地ニ作る者ハ同シ、此法を用ヒて、作リる者ハ、箒を破れバ、容易ニ掘り出シ得ルが故ニ、畑ニ作るニ比シて、益多クし、且、便あり

佛掌薯

佛掌薯^{ツクシイモ}は、能く培養をせむ、多く收量ありて、凶年の備へ、適當あるものあり、其作法を、粗薯^ホ類と同し、但、其丈短きう故に、作土へ、深きを要せば、若、土龍の之を害する時へ、葱^{ネギ}の葉を采りて、其邊に散すべし
甘露^{ナヨロギ}兒を、肥沃の陰地、木蔭の濕地等も宜し、三四月の交、地を耙きて、肥料を施し、一尺つゝ、隔て、根塊^{タマ子}を植へ、上は、糠を播き散らすべし、此根塊を、煮て食むるの外、蜜漬又は、紫蘇漬とせば、風味殊小賞をべし

甘露兒

丹卷

慈姑

卷丹^{マニユカ}は、(リヤウリユ)百合^{ヤマユ}の如く、其味美ならざると雖、是亦、其根は、多量の澱粉を含むものにして、其味亦賞をべし、秋季、葉間の瘤を取り、春時、之を五寸隔^テに、種を付くまじ、三年にして、大なる鱗根を得べし、肥料を、下糞等皆可あり
根の鱗片を、剥き取りて、食むる時へ、其根軸を残りて、植へ付くべし、二年にして、大なる鱗根を得るものあり
慈姑^{クハ}は、泥水等の、多く流せ入りて、稻の出来過ぐる所も宜し、三四月の頃、九、七八寸隔^テに、芽を上方

蓮

小向をいめて、一顆つゝ、種を付くべし、其價貴き
 が故に、市邑に近き處に作せば、利益最許多から、
 其掘取を、九月十月の頃を、好期といひ
 蓮を殖せしむ、子蔞マキ及根分ワケの二法を以てて、子蔞
 を、八九月頃、其子の黒く堅まるを採り、其頭を、
 石或ハ瓦にて磨り、肥土に包みて、泥中に植うべ
 し、但、實りたるまゝ、直に之を種うるも、能く生育
 するものなり
 根分法を、二月頃根の疵なきものを掘り、二節若
 くハ、三節を付け、切根と為して、植を付くべし、肥

韭

料ハ、小便糠を第一といひ、小便糠とハ、糠を小便に
 浸しとるものを云ふ
 種類ハ、二あり、一は其花紅色にして、其根ハ粘ネリケ氣
 なく、一は、其花白色にして、其根ハ粘ネリケあり、故に、之
 を餅蓮と云ふ、又、近來、清國より、渡りたる種類ハ、
 根、葉、及花とも、非常小、大なる白蓮あり、各種共、其
 植地ハ、泥田、深田、及池沼等皆可あり
 韭ヲを、尤モ作り易きものにして、一度之を植を置く
 時ハ、幾年ともなく、繁茂し、又、廿日毎に刈り取るを
 得べし

薤

種子を二月頃之を蒔き、九月其苗四本づゝを、一株とし、灰肥を用ゐて、種を付くべし、雨の降る時に、小便、藁灰等を施せば、生茂尤速かり。此菜を葱と同種の植物あるを以て、之を列ね植う。此菜、花時、互に雑種を生むるの恐あり、故に種子を取るよし、必ず列ね植うること勿せ。薤は、其根を味噌、醬油等、浸して食し、或は酒糟、小漬け、或は酢水、浸し、或は少湯引きて、酢、醬油、小漬け、之を菜として用ゐるあり。植地を白砂の軟りある肥地を選び、初め二三度

蒜

之を耙き、二三月の頃根を分ち、一科に四五本づゝ、種を付くべし、假令木蔭等の地と雖、能く繁茂するをのなり。蒜は、大小の二類あり、大なる者を良種とし、土地を肥沃にして、軟ある處を好み、下種を春秋の間皆可あり、植方、畦を小筋を立て、三寸隔に、一箇づゝを列ね植うべし、肥料は、能く熟しとる、厩肥等を佳ありとし、又畦間を耕耘せる度毎に、必ず糞水を灑ぐべし、夏日、此菜を食せむを中暑せば、冬日、之を食する時に、絶て、寒冒の患ありと云へり。

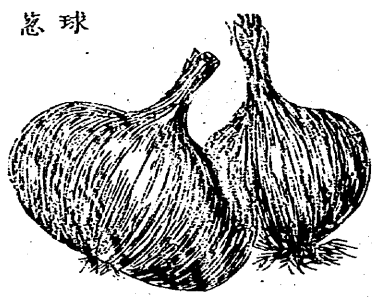
葱

葱ネギ、大小二類あり、各種皆同トク、三月頃種子を
苗床カ下カ、稍長ずるカ至カりて、畑地カに移カすべし、
土地カハ、其層深くカして、能く肥へカる處を選び、小
便、藁灰等屢カ、與カふべし、

移植法カを、先、畦カを深く掘り、小便、或カは、藁灰等と與
へ、四五本をカ一科カとして、之を植カえ、次第カに厚く、土
を覆カふべし、是、白莖カの長カくして、且、柔カあるを欲カ
てあり

葱球

葱球ネギノリを、單カに、其球根カのみを、用カふるべきとあり、
其食法カは種々あり、或カは、煮カく之を食カひ、或カは、酢カに



葱球

漬けて貯カふべし、作法カを、七月、種
子と苗床カは、時カき、四五寸カの長カせ
一頃、畑地カに、二尺カの畦カを作り、四
五寸隔カに、植カえ替カふべし、肥料カを
與カふるカは、堆肥カ、雜糞等カ、尋常カの
葱カに、用カふるカは、同カトくカとカべし、

薑

薑ハシカを、俗カに生姜セウカと云カふ、辛料カに用カあるカの外、蜜漬カ、又
は、砂糖漬カもカをカべし、之カを作カるカは、深く、細砂カの肥
地カを耕カし、能カく之カを肥カし、置カきて、種根カの疵カなく、芽
の少カし出カてカるカのカを選カび、一芽カづカつカを附カけ、切

りて植うるなり、其距離を、凡、六寸許ふりて、薄く土を覆ふべし

茅の長トて、漸く土上ふ出る頃、之を中打りて、肥料を施さべし、肥料を、下糞、厩肥、油粕、及、麥糠等皆効あり

清國の種ハ、最佳良なり、其大尋常の薑ハ此を比し、三倍、或は、四倍あり

荷蕪

蕪ミヤウガハ、夏秋の二種あり、五六月、根の側より花を生ト、秋ハ至る者を、夏蕪荷と云ひ、七八月、花を着くるを、秋蕪荷と云ふ、其莖、及、花を、料理よ

蕪紫

用ふるべく、葉の織緯ハ、草履の裏ウラハ造るべし、植地を、葡萄棚の下、又は、木蔭等の陰地を好むなり、二月頃、根を分けて植ふ、塵芥、又は、能く熟しとる、厩肥を覆ふべし

蕪紫ハ、二月中旬頃、種子を苗床ハ蒔き、三四寸の頃、移し、植うべし、植方の畦間を、凡、一尺五六寸と為し、距離ハ、四五寸、又は、六七寸と為し、色紫

トして、葉の縮むとるを、最上の種類と以て、肥料を、苗床の中、及、移植の後、各、一度づつ、與ふべし

蓼

蕃椒

山葵

蓼シロも、其葉を辛料シロに用ゐるべきものなり、其莖葉赤色あるものあり、緑色なるものあり、又、其葉形圓潤あるものあり、細長あるものあり、共不昏、二月頃、下種をべし、植地を濕地を良しとす、蕃椒トウガラシも、其實を辛料シロに用ゐるものなれども、其辛味をき種類を野菜の如く用ゐるあり、其實の形状種々あり、其色赤紫黄等の別あり、其作法を總て茄子ナスに同ト

山葵ワサビも、其根を辛料シロに用ゐる者あり、深谷の濕地中、自生をせども、湧泉ある濕地にてハ、能く之を

んこいだびさじ



作るを得べし、又、樹の下、或は、日陰等も、之を作るも、可ありの葉山葵ワサビを得べし、此莖葉を茹きて食へむ、其味殊小賞をべし

杞シロいびシロだシロいシロこんシロと、近來舶來せるものなり、其根の辛味、山葵ワサビに似たり、其播種の法は、二あり、一

法は、三月頃種子を床蒔し、一法を、其根を寸断し、畑地シロに、二尺幅の畦を作り、四五寸隔シロに、植え付くべし、培養の法、總て胡蘿蔔シロに同し

農學啓蒙 卷の二 十五

歸當上

どう葉松

土當歸ハ、三月頃芽を生じ、冬の末、及仲春の間、土中の芽を采りて、食ふべし、山野中、自然生あり、其根を取り、分けて、深く植ゑ、馬糞、塵芥等を覆ひ、置けバ、早春、佳良の莖を得べし

松葉マツバうどむ、葉の形、松葉に似たるが故に、此名あり、滋養分甚多く、洋人の、極めて貴重なる者なり、其嫩芽の、白色ある者と、食ふあり、下種ハ、三月、種子を畦蒔し、十月、畑ハ、幅三尺許の畦を作し、少し土を穿ちて、腐熟せる堆肥を、厚さ凡、三四寸許入し、根を、傘の如く之を、擴げ、凡、一尺隔、お移し

松葉マツバの嫩芽



植ゑ、兩側より、土を盛り、うくべし、培養宜しきを得しバ、直ハ、翌年より芽を得べし、自後ハ、年々宿根より芽を生じ、夏月の間、常に其芽を、采り得べし、其後ハ、芽を采らざりて、長せしめ、霜降の節ハ、至りて、其莖葉を、畦の上ハ、刈り、偃せべし、其嫩芽ハ、味甚、美し、て、價亦極めて貴し、貯藏の法ハ、酢漬、塩漬、水煮等として、罐装よむべし、肥料ハ、雜糞、堆糞、及、馬糞等皆宜しく、殊ハ、鳥獸の腐肉、屠牛所の血汁、及、骨類を、賞用と、又、時々、食塩

濱防風

芥

少許を取り、株の側へ散布をべし
 濱防風を料理用の香菜あり、海濱の白砂へ實を
 蒔きて、手入をる時を能く繁生を
 芥ハ根芥葉を食ふべき、野菜あり、根を采りて、
 水濕の地へ分ち植ゑ、少しく肥料を與ふせば、數
 回刈り取りて食ふべし、之を刈りたる時、泥水
 と漉ぎ掛くせば、芽を出ること、最速なり
 俾芥ハ洋人の賞美せる香菜にして、肉を食する
 時、生じて之を用ゐ、又、杯盤の裝飾へ用ゐるに
 下種の期を三月以後、九月迄を宜しとす

芥

蒿塘

植方を陰濕の地へ、幅二尺許の畦を設け、溝播を
 せると宜しとす、肥料を堆糞、雜糞等、皆可あり
 塘蒿を生のもの、其白莖を食すべき、香菜にして、
 其佳味賞をべく、其價も亦極めて高貴あり
 下種を三月中旬より、九月中旬まで、何の時も、於
 てする可あり、但其蒔法を、苗床へ撒播し、其
 苗の二三寸を長とし、陰地を選び、三四寸距
 り假植し、其六七寸を長とし、更へ畑地へ移さ
 べし、之を移し植うるもの、其畑の畦幅を、五尺を
 し、其中央へ幅深ども、二尺の溝を掘りて、一尺距

野蜀葵

小植ゑ、土を二寸許覆ひ置き、其長どる小從ひ、漸次、兩側より、土を懸け、其度毎小、水糞、或は、人糞の薄きを灌ぐ、取入て、其白莖の、尺餘子成り頃を可と以
野蜀葵を、莖葉、及根をも食すべし、濕地、樹の下、及籬の根等、肥沃の陰地、畦を作りて、植ゑ付くべき、能く繁生を、但、其白莖の長きを欲せば、畦の左右より、適宜小、土を盛り懸くべし
冬、花、莖、及花を食すべし、種類小、大小二種あり、小種ふて、水欸冬を賞し、大種ふと、秋田欸冬

冬欸

芥菜

を最佳と以、皆日光を、忌むが故、日蔭の地を選びて、作るべし、肥料ハ、小便糠、及、厩肥を最上と以芥菜ハ、其種子を、粉にして、辛料小、用ゐるとの、か、り、八九月頃、能く糞養せる、苗床小、下種し、時々間引きて、糞水を與ふべし
苗の延びて、四五寸小至る時、八九寸隔、一本づつ、植ゑ付くべし、又、常々、虫害ある畑、此菜の莖葉を、翻さ込む時、能く、其害を絶つとの、み、ら、を、兼て、地面を、肥沃小を、と云へり
平莖菜ハ、其莖葉を、漬けて、食すべし、野菜あり、下

平莖菜

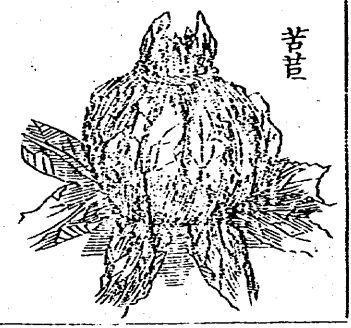
種培養の諸法とも、蘿蔔を作るに異あらば、但、根を需むるにのみ、あつとざるを以て、作地を、左の之深きを要せば

又、此菜を、虫害に罹り易き、そのみれば、發芽後、注意して、之を防ぎ、寒中畑地へ、其儘に置く時を、藁塵芥の類を、振り懸けて、霜雪の害を、防ぐべし
近來、清國より渡りたる、體菜、山東菜、あどいへるもの、及、從來東國にて、三川島菜と、云ふものを、皆此平莖菜の、一種あり

莖菜

莖菜ハ四季共、植うまども、六月、種子を取りて、

苦苣



八月、之を蒔くを、通例と、以、其苗、稍長ぜる時、適宜の畦を作りて、移し植ふ時々、小便、泔水等を、與ふべし
近來、舶來の種類に、最良好ある者あり、其葉軟、少しく、苦味少く、生食、煮食とも、極めて可なり

苦苣ハ、二種あり、一は、其葉縮緬の如く、皺むが故に、一は、之を縮緬と云ふ、八月、種子を苗床に蒔き、延びて、三寸許に至むば、畑地に、九、二尺許の畦を作り、一尺距に、植ふ付

くべー

葉の相應小長ぜー時と、圖の如く、藁カにて、結び束ぬべー、二三週間を経せバ、内部の葉、悉く白く變ぢ、之を采りて、酢を注ぎ、生じて食せべー、斯くの如く作るを、洋食にてハ、サラダと云ふ、糞培の法と、總て萬苺マンショウ小同ト

藁カ

藁カ、地味を嫌ぢ、能く繁生を、若苗カと、人畜の食とあり、種子よりハ、良好の油を得べー、培養の法と、總て蕪菁カ小同ト

又、此藁カの一種小、小松菜カと稱せざるのあり、專

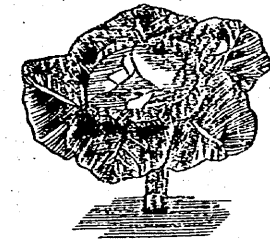
蒞カ

其葉を、食せざる者ありて、風味殊小可あり、蒞カ草カを作ると、二法あり、一法と、苗カを作りて、畝カ不移植し、一法と、六月頃地を拵え、糞を打ち、七八月の頃、下種カを多あり、又、種子を残り置きて、二月の頃、之を蒞カくも可あり、蒞カき方と、種子カと土を合せ、畦筋カと、少く深く、蒞カき付くべー

植地と、種類小依りて、異同あり、即、圓葉種カハ、肥沃の濕地を好み、三角葉種カハ、乾地を好みあり、蒞カき方と、畦筋カ撒播カ、共小可あり、注意して、能く培養せべー、莖葉カ甚カ柔カありて、風味、殊小賞すべー

甘藍

甘藍ハ、一名を、椰菜と云ふ、其種類甚多、葉の球形を、あせる者を采りて、之を細割し、煮て食用とし、其周囲の葉ハ、家畜の飼料とすべし
下種を、床蒔を法とし、夏日の用ハ、供する者ハ、三月、下種し、冬季の食ハ、供する者ハ、七八月の頃、



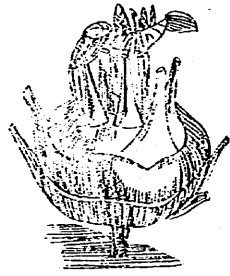
甘藍

下種をべし
苗の、凡、二三寸ハ長ざる頃、抜き取りて、假ハ之を、四五寸隔、ハ植え、白晝を、覆を設けて、之を畑地ハ、移し植うべし、畑地ハ、肥沃なる、真土を

菜珠

最上とす、植法ハ、一坪ハ、凡、九株を度とし、小孔を掘りて、糞土を入し、其内ハ、植え込むべし
肥料ハ、雜糞を、最良とし、以、多量ハ與ふべし、ハ、利益殊ハ多し

珠菜ハ、甘藍と、蕪菁との、中間種あり、其地上ハ出で、球状を、あせる者を采り、煮て之を食し、葉ハ、家畜の飼料とすべし



下種ハ、二法あり、一ハ三月頃、種子を苗床ハ蒔き、三四寸の頃、畑地ハ、幅二尺許の畦を作り、一尺

菜花

距、小、移し植ゑ、一を、始めより畑地、小、蒔き付くる
あり、培養の法を、總て甘藍、小、同ト
花菜を、近時舶来せる、野菜、小、して、其種類、小、二あ
り、一を「コーリフロワ」と云ひ、一を「ブロッコリ」と
云ふ



此菜を、作る、小、ハ、七月頃、種子を、苗床、小、蒔き、移し
植うる、こと、甘藍の、如く、を、べ
小、冬も、笹竹、或ハ、杉葉を、樹て、
霜雪を、防ぎ、翌年、小、至りて、其
花蕾を、採り、或ハ、煮て、食し、或

朝鮮薊

を、酢漬、小、して、貯ふ、べし
朝鮮薊ハ、花蕾の、將、小、開く、ん、として、百合根の、状
を、あせる、頃、之を、採收し、鱗片の、軟肉を、食す、但、其
食法、或ハ、生、小、して、食し、或ハ、茹き、或ハ、油煎、小、して、
食す、べし

此菜を、殖す、小、ハ、春、又ハ、秋を、以て、根分、若くハ、子
蒔の、法を、行ふ、べし、即、根分、小、して、殖す、小、ハ、其根、株
を、分ち、栽え、子蒔、小、して、殖す、小、ハ、畦幅を、二尺、小、作
りて、種子を、溝播、小、し、十月上旬、畑地、小、三四尺の
畦を、作り、三四尺、隔、小、移し、植うる、あり



朝鮮菊

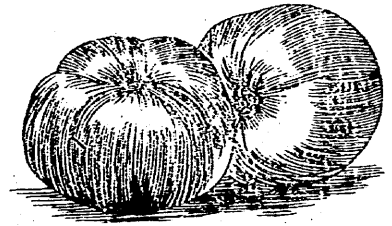
肥料を、何品を施せも、妨
みくと雖、就中、堆肥、及、馬
糞を良とし

茄子

茄子ハ、種類ニ依リ、其實の色ハ、紫、青、白、種々あり、
形ハ、圓きと、長きあり、種子を蒔くハ、暫時、之を
水ニ浸し、灰沙を合せて、蒔き付くべし、其苗床ハ、
東南ハ、面を、地をトし、一月頃、能く之を耕し、牛
馬の糞、又ハ、下糞を埋め、上ハ、高く、軟土を覆ひ、水
糞を灑ぎて、下種をべし
既ハ、種子を、苗床ハ、下し、時ハ、直ハ、細土を、四五

分許覆ひ、其上ハ、古筵等を被ひて、温養し、苗の葉
九、八分許の頃、覆を去り、時々、肥水を洒ぐべし
苗長トて、九、四寸許ニ至せば、其中強くトて、且、一
様ある者を選び、之を移し、植うべし
植法ハ、植地ハ、小孔を掘りて、糞土を入せ、立根の
先ハ、少し、鋏と去りて、植え付くべし
肥料ハ、灰肥、塩水、下糞、小便、及、泔水等を、混和した
る者を、最上とし、干鰯、油糟、溝泥等、之ハ、亞々
此植物ハ、尤、同地を、嫌ふが故ハ、必、年々、地を替へ
て、作るべし

茄蕃



茄蕃

蕃茄アナスを、或は生のまゝ、酢をかけ食し、或は煮て食するを、常とせむとも、蕃茄醬アナスソースを製して、罐装カンザウせむるを、最利ありといひ

此茄の作法は、總て尋常の茄子と同く、唯、其枝葉極めて、蔓延せる者ありば、竹、或は粗朶アサギふて、塙アサギを作らざるを、必用といひ

甜瓜アハカは、大小あり、小なる者、最甘味多し、植地を、必しも、肥沃を要せざると雖、土性強くして、濕氣多く

甜瓜

且、早魘アハカの節、水を引くふ、便ある處を、選むべし、下種法を、一月頃より、屢畑アハカを打ち、畦の間を、凡、四尺隔アハカとし、孔を、一尺隔アハカし、穿ちて、糞土を入し、三月初旬、三四粒づつ、蒔き付くべし

苗長して、凡、四寸許アハカし、至せば、強健あるを、二本を残し、其餘を、總て抜き去るべし、其後、株の周邊を、掘り廻し、干鰯アハカ、又は油糟アハカを埋むべし

三葉、或は四葉の頃、其蔓先を、切り留むべし、又、葉間より、出る枝を、四方へ配り、其蔓先も亦、四五葉の時、摘み去るべし、良き瓜の付くは、即、此二番

瓜胡

蔓あり、又蔓小雄花のみありて、雌花のみ者ありて、速小、其根元より切り去るべし。下種の後、初めて花を着くるまで、屢々中打して、雑草類を抜き去るべし。

胡瓜ナツメの作法も、大略、甜瓜メロウと同し、只竹、及柴等を立て、蔓を這ひ上らしむるを、異ありといひ、暖地にて、早春之を作り、寒地小賣出の時、非常の利を得

瓜冬

冬瓜トウモロコシの作法も、種子を一粒づつ、灰小合せ、能く糞養せる、苗床小蒔き、時々水肥を注ぐべし、移植を

瓜菜

四月頃を、好期といひ、植地も畦を廣くして、孔を作り、肥土を入き、雨天の前之を植うるを佳とし、取込の期も、瓜の外面、白粉を着くる時を、宜しとす。

瓜浅

菜瓜ツツクも、作法、甜瓜メロウと同し、之を漬瓜と呼ぶを、漬て食用とすれはあり。浅瓜アサナハ、一ふ、之を白瓜と名づく、作法、甜瓜メロウと同し、植地も南向の暖地を、上とす。

瓜西

西瓜スイカハ、其果の熟せし時、生おき、食するを、常とす。まども、其若き時、み於てハ、漬物小して、用ゐるべ

瓜西

瓜南

一、而して、其作法、甜瓜不同と雖、其畦間も、凡倍
 餘の、廣きを要す、又、蔓の下ふり、必、麦稈の類を、散
 布すべし、洋種中、肉色黄なるものも、其味尤美か
 り
 南瓜カボチャを作るも、尤、日當、好き、處を選び、直時、又、
 苗床も、育てたる苗を、移し、植うべし
 畑地は、極めて、肥沃なるを佳とし、又、蔓も、平地も
 這えしめ、或も、架上も、這えしむるの、二法あまど
 も、架上も、這えしむるを、利ありと云、又、雄花の花
 粉を、注意して、雌花も、點せれば、其實入、殆、十倍を

壺

瓜絲

近来、外國より、渡りたる種類も、頗、大なるものあ
 り、其最大なるも、一顆を一人も、持運ぶこと、能
 わざる程なり、西洋も、牛馬も、與ふる為め、多く
 作るものも、此種類あり
 壺ウツも、其種類も、依り、長さ、短き、圓き等、其形、種々
 ありと雖、長さ等のと、圓き者のも、食ふべし、作法
 も、粗、南瓜も、同し、但、其蔓も、長く、延びしむべし
 絲瓜ヘチマの作法も、壺も、同し、其若を時め、菜とし
 て、食用も、供し、其充分も、成長せし時、肉を腐し、

織緯を採り、以て種々の用へ供せべし、近來清國より渡りたる、長絲瓜を、其長六尺不餘るものあり、頗良種ありて、能く我國に適せり

農學啓蒙前編卷之二終

津田 仙 譯述
十文字 信分

農業新書 全部十冊内 五冊既刻 此定價 金一圓

右ハ米人ツッケルマン氏の農業書を首とし歐米農學諸大家の實驗説を譯述し且ツ和漢今古の諸説をも其間に編述せるものにして農學實行家の參考に供せんが爲め刊行せるものなり

十文字 信分 校閱 小澤善平 纂譯

葡萄培養法 全四冊 定價金 附録一冊 金十五錢

右ハ有名の葡萄培養家フルレル氏の著書を基本とし小澤氏米國に遊び以て十餘年間一意に實驗せる所の確説を掲けたるものなり

十文字 信分 校閱 佐伯 義門 著

天蠶新論 全一冊 定價 金廿錢

右ハ天蠶即(野蠶)の性質、養法等明細に論述せるものにして右飼養者の參考に供せんが爲め刊行せるものなり

十文字 信分 編纂 岡田 松生 抄譯

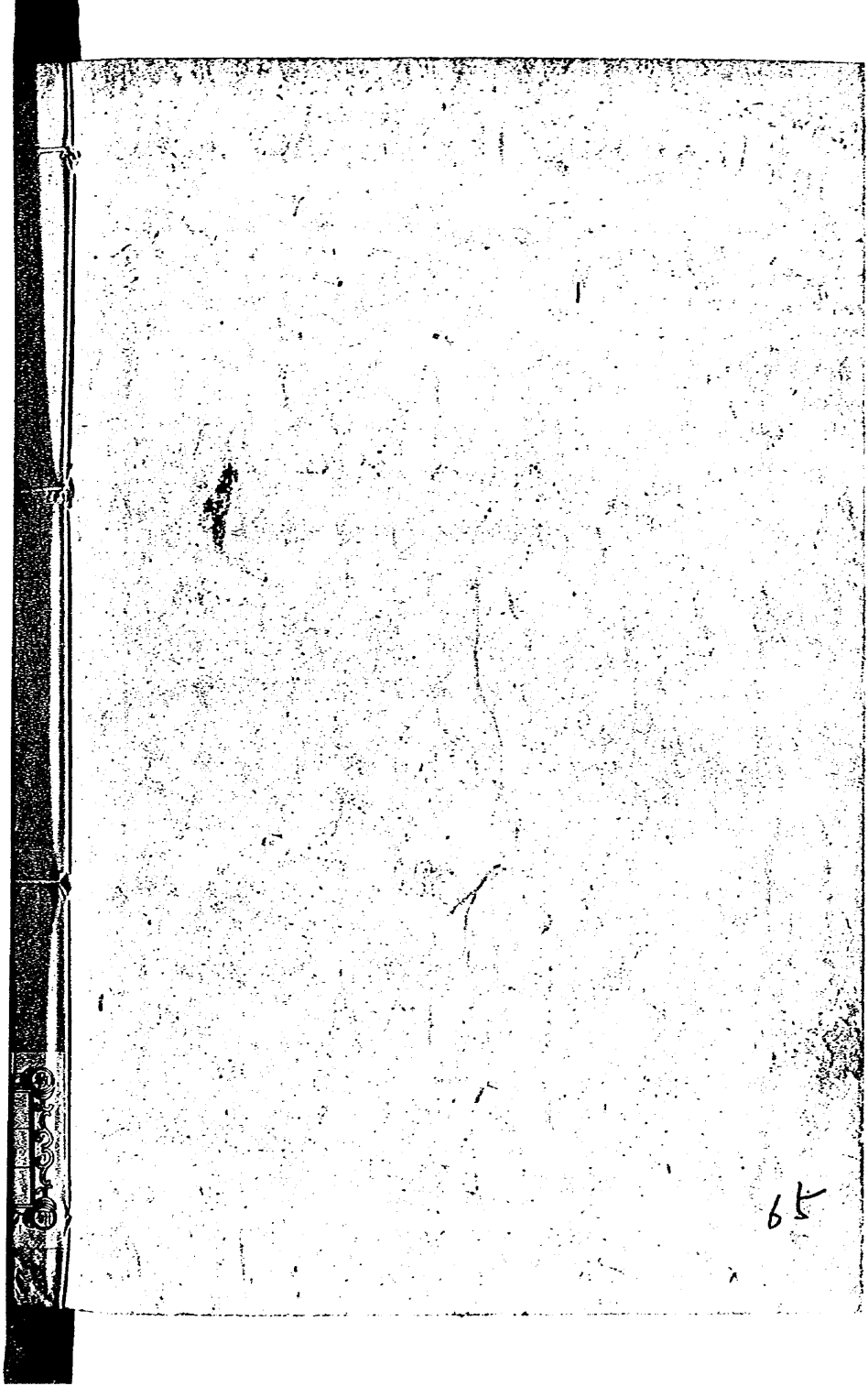
農業化學 全二冊 近刻 定價 金五錢

右ハ化學博士ノルトン氏の原書を基き農業化學の大要を陳述せるものにして初學の階梯とす應きものなり

K110.6
23
1

大坂北久太郎町	西京姉小路上	廣島 二丁目	備後福山	同 尾道	備前岡山	備前岡山	下総千葉町	同 水海道駅	伊豆松崎	上総茂原	安房北条新宿	信州松本	北深志町	上州高崎田町
柳原喜兵衛	菱屋孫兵衛	松村善助	整理社	木村義助	細謹社	世良田益太郎	乙亥堂	江戸屋為吉	内田桂兵衛	松下安民	高美屋甚左衛門	菊屋源作		
<small>常陸水戸 上市泉町</small>	<small>相模小田原 新玉町</small>	<small>肥前長崎 今銀治屋町</small>	<small>薩摩鹿兒島 仲町</small>	<small>雲州松江本町</small>	<small>加賀金沢 安江町</small>	<small>越中富山</small>	<small>美濃大垣</small>	<small>尾州名古屋 玉屋町</small>	<small>紀伊和歌山 播磨姫路</small>	<small>土佐</small>	<small>近江</small>	<small>駿州靜岡 江川町</small>		
林 德十郎	曾比屋平七	鎌田勘治郎	吉田源太郎	園山喜左衛門	近岡屋太平	大橋甚吾	玉井忠造	片野東四郎	野田大二郎	山野長平	澤木駒吉	澤宗二郎	本屋市藏	

遠州掛川	飛騨高山	甲府常盤町	下野初木	倭町仙臺	國分町	會津若松	大町	磐城平町	羽後山形十日市	越後高田土橋町	但馬	備中	長門	周防	筑前福留
山内彦十	外屋十兵衛	内藤傳右衛門	山中八郎	菅原屋安兵衛	田中善平	清水甚太郎	荒井太四郎	高野松四郎	大橋久吉	森田産藏	伊藤利八	宮部彦八	林 斧助		
<small>讚岐高松</small>	<small>備前</small>	<small>因幡</small>	<small>伊豫松山</small>	<small>阿波徳島</small>	<small>和泉堺</small>	<small>伊賀</small>	<small>伊勢松坂</small>	<small>越前福井</small>	<small>陸奥青森</small>	<small>羽後秋田</small>	<small>支那上海</small>	<small>同 廣東</small>			
福岡友七	佐野長七	山本次八	上島乙吉	真鍋為之助	坂井萬吉	北村佐平	横山利雄	本屋嘉助	森下元次郎	池田吉助	本岡金之助	申 報館	怡和號		



65